

低硫黄C重油		A重油	
<ul style="list-style-type: none"> ・国内では供給例がなく※、各社で性状を検討中 ・製造方法は多数あり、会社毎に性状(動粘度、流動点、熱量、etc.)が異なる可能性 ・JIS規格の性状範囲は広く、JIS規格に適合しているからといって船舶で適切に燃焼・使用できるとは必ずしも言い切れない ・ISOでは動粘度によって規格が細分化されているが、残渣油の規格では動粘度の下限值はないため、ISO規格のみでは動粘度の絞込みは困難 <p>※欧州等の特別海域では0.1%の低硫黄C重油(ISO:RMD80準拠、RMG180準拠)が供給中。また、海外では一般海域用の0.5%の低硫黄C重油も実船でトライアル済。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・既に供給されている(ただし、硫黄分濃度は0.35%~0.7%程度であり、0.5%以下とするために調整が必要なものも一部存在) <p>※現在も199GT以下の船舶のほぼ全てがA重油を使用。499GTの船舶でも約半数がA重油を使用(499GTタンカーでは、ほぼ全てがA重油を使用)</p>	
課題	検討状況	課題	検討状況
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンで正常に燃焼できるか(エンジンに損傷を与えないか、着火遅れが起きないか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数サンプル燃料の燃焼試験を実施 	<p>(新造船)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A重油専焼船の建造をどのように促進するか 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄運機構にて労働環境改善船(A重油専焼船)の支援を開始 ・A重油専焼旅客船の配乗要件緩和の可能性を検討中
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンでの正常な燃焼を確保するため※燃料タンクからエンジンまでの燃料移送工程(加熱装置、配管、ポンプ等)が対応できるか <p>※エンジン入口での動粘度を一定範囲にするための温度管理等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海運業界、石油業界、造船・船用業界、関係省庁と連携して、問題点の洗い出しと対応策の検討を実施(6者協議会) ・本事項を反映したガイダンスを作成予定 	<p>(既存船)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C重油燃焼船からA重油専焼船への移行をどのように促進するか 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本船用工業会において、A重油転換時に部品交換等が必要な機器リストを公表(国交省HPに掲載) ・A重油専焼船への転換の際に必要な機器の導入支援を検討中 ・A重油専焼旅客船の配乗要件緩和の可能性を検討中
<ul style="list-style-type: none"> ・複数の性状の低硫黄油を混合しても問題なく使用できるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・混合安定性確認方法、低硫黄C重油の流通経路(混合せずに供給できる可能性)等を調査中 ・本事項を反映したガイダンスを作成予定 		